

日本保健医療行動科学会
HEALTH BEHAVIORAL
SCIENCE NEWS LETTER

平成22年2月20日発行

第71号

発行 日本保健医療行動科学会
〒272-0021 千葉県市川市八幡 2-6-18-501
TEL:047-332-0726 FAX:047-332-5631
発行責任者 谷口文章
編集責任者 朝倉京子、川幡和子(事務局)
郵便振替 00170-2-2052
URL:<http://jahbs.info/>

第6回国際保健医療行動科学会議(ICHBS2010)

持続可能なヘルスプロモーション

—well-being のケアと human security の環境についての対話— の開催にあたって

大会長 谷口文章



第6回国際保健医療行動科学会議が、2010年9月18日(土)～21日(火)に、マレーシア・マラヤ大学において開催されます。今回は「持続可能なヘルスプロモーション—well-being のケアと human security の環境についての対話—」というテーマのもと、基調講演、シンポジウム、研究・ポスター発表、ワークショップ、エクスカージョン(マラヤ大学医学部 HIV/AIDS センター)、またオプション企画としまして先住民の人々の保健医療に関する調査研修旅行(9月22日(水)～24日(金))を予定しています。

本学会では、1986年設立より現在までに5回の国際会議を開催してきました。第1回:ヘルスケアにおける伝統と現代性(1988年, ハワイ)、第2回:21世紀のケアシステムを提言する(1991年, 東京)、第3回:危機と行動—成長と連帯—(1996年, 東京)、第4回:「健康」のための統合的アプローチ(2001年, 神戸)、第5回:健康と環境の教育—統合医療と環境教育—(2006年, タイ)でした。このように各大会とも、世界各国から多数の専門家や実践家が参加し、国際的にも先駆的な保健医療行動科学の研究・実践が重ねられてきました。

ところで地球温暖化などの環境問題に示されているように、近年、健康被害の状況と異常気象などの問題がリンクしたかたちで注目されてきています。それに対処するために、それぞれの学問領域で“持続可能性 sustainability”の概念が共通の枠組みになりつつあります。この概念は、国連が設置した「環境と開発に関する世界委員会」(ブルントラント委員会)によって提唱されました。また国連総会で採択された報告書 **Our Common Future** (1987年)のなかでも、**Sustainable Development** (持続可能な発展)が謳われ、「持続可能な発展とは、将来世代の生存と生活のためのニーズを損なうことなく、現代世代のニーズを満たす」ことが、定義として述べられます。その後、それは「環境だけでなく、貧困、人口、健康、食糧の確保、民主主義、人権、平和をも含むものである。最終的には、持続可能性は道徳的・倫理的規範であり、そこには尊重すべき文化的多様性や伝統的知識が含まれている」(テサロニキ宣言)とされています。健全な環境が生命(いのち)の健康を支えます。それと同様に、サステイナビリティはQOL(生命・生活・人生の質)を充実させ維持できる発展(ローマ・クラブ)、ウェルビーイング(健やかさと幸せ)とヒューマンセキュリティ(人間の安全とその保障)を内部に備えた成長であるべきと考えられます。したがって、well-beingのケアとhuman securityの環境について、専門家、実践家、そして現場の人々のあいだで「持続可能なヘルスプロモーション」をめぐる対話をテーマとしました。

今大会プログラムでは、マラヤ大学・文明化のための対話センター(CCD)におきまして、さまざまな民族、文化、宗教が織り交ざり、ダイナミックに躍動しつづけるマレーシアの価値の多元性に触れながら、「文明と文化の対話」、「国際開発協力」をめぐる問題を検討します。さらに「グローカリゼーション global/local-isation」、「グローバル・ヘルスプロモーション」の視座から、生命、環境、ケア、健康を維持・発展させるための人類普遍の共通理解をもとめたいと願っております。

みなさまの研究発表へのエントリーとご参加を心よりお待ちしております。

ICHBS 2010 会議概要と今後の予定について



- | | | |
|---|--------|---|
| 1 | メインテーマ | 持続可能なヘルスプロモーション
—well-being のケアと human security の環境についての対話— |
| 2 | 会 期 | 2010年 9月 18日(土)～21日(火) ※3泊4日(うち1日, エクスカーション)
★調査研修ツアー(オブショナル企画):9月 22日(水)～24日(金) |
| 3 | 会 場 | マレーシア・マラヤ大学(クアラルンプール) |
| 4 | 使用言語 | 英 語 |
| 5 | 主 催 | 日本保健医療行動科学会 |
| 6 | 実施主体 | 第6回国際保健医療行動科学会 実行委員会 |
| 7 | 共 催 | マラヤ大学 Centre for Civilisational Dialogue |



プログラム(予定) 暫定的な会議スケジュールですので、変更の可能性がります。

日 程	会 議 ス ケ ジ ュ ー ル
9月18日(土)	マレーシア/クアラルンプール国際空港着
9月19日(日)	オープニング・セレモニー 基調講演Ⅰ「マレーシアにおける HIV/AIDS 医療」アディバ氏(マレーシア/マラヤ大学医学部教授) 基調講演Ⅱ「持続可能なヘルスプロモーション」谷口文章氏(日本/日本保健医療行動科学会会長) 基調講演Ⅲ「生命倫理をめぐる科学と宗教との対話」アジザン・バハルディン氏(マレーシア/マラヤ大学 CCD 所長) シンポジウム「グローカリゼーション・ヘルスプロモーション—well-being のケアと human security の環境 についての対話— ★「ライフスタイルと健康環境」★「well-being と宗教」★「災害とヒューマンセキュリティ」 ★「健康と環境のためのケアとガイドライン」 ★「ナラティヴと対話」(パネリストのテーマ予定) ウェルカム・パーティ
9月20日(月) ☞敬老の日	研究発表・ポスター発表 基調講演Ⅳ「マレーシアにおける医療問題と保健医療政策」(マレーシア保健省) ワークショップ ★A会場「シャーマニズム・民間療法・マッサージ・食餌療法・瞑想」などから検討中 ★B会場「ユナニ医学(イスラム伝統医学)」 クロージング・セレモニー
9月21日(火) (オブショナル)	エクスカーション ★マラヤ大学医学部 HIV センター視察 現地調査研修ツアー エンダウ・ロンピン国立公園(カンポン・ベタ:クアラルンプールから所要約6時間)
9月22日(水)～ 24日(金)	Jakun 族(原住民コミュニティ)のライフスタイル・民間療法・宗教儀式などの視察研修
9月25日(土)	帰国日

≪今後の予定≫ ※参加ならびに発表エントリーの方法につきましては、次報にてご案内致します。

3月末日 ICHBS2010 サード・アナウンスメント発送
発表申込・参加申込 エントリー開始

6月25日(金) 発表申込エントリー締切・一次登録締切

7月20日(火) 発表要旨の提出締切

≪お問合せ先≫ 第6回国際保健医療行動科学会議実行委員会(ICHBS2010)

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学文学部 谷口研究室気付
TEL/FAX: 078-435-2368 E-mail: fumiaki@konan-u.ac.jp